

## 「第11回衛星放送協会オリジナル番組アワード」 「第74回カンヌ国際映画祭」 「8Kサービスの現状」 「2021年に最も注目される衛星関連事業者」

神谷 直亮

衛星放送協会は、「オリジナル番組アワード」を2011年に創設した。同協会の会員社が、専門チャンネルの強みを生かして制作した優れたオリジナル番組や話題性のある編成企画を審査、決定、表彰するとともに、これらの番組を視聴者に広く知ってもらうことを目的としている。

この趣旨に沿って、7月13日に衛星放送協会が「第11回衛星放送協会オリジナル番組アワード」の最優秀賞を発表した。番組部門は6ジャンルから構成されており、最優秀賞は次の通りであった。

**ドラマ部門** 「連続ドラマW コールドケース3～真実の扉～」(制作:WOWOW)

**ドキュメンタリー部門** BS12スペシャル「村本大輔はなぜテレビから消えたのか?」(制作:ワールド・ハイビジョン・チャンネル)

**中継部門** 「サンウルブズ ライブトレーニング フィジカルチャンピオンシップ」(制作:ジェイ・スポーツ)

**文化・教養部門** 「劇場の灯を消すな! Bunkamuraシアターコクーン編 松尾スズキプレゼンツアクリル演劇祭」(制作:WOWOW)

**バラエティ部門** 「魔改造の夜」(制作:NHK BSプレミアム)

**ミニ番組部門** 「名探偵のお弁当」(制作:ミステリチャンネル)

これらの他に、編成企画部門と番宣部門の最優秀賞、CAB-J賞、ドラマ奨励賞、審査員長賞が次のように発表された。

**編成企画部門** 『鉄道発見伝』“番組コミュニティ”の発想から番組づくり!～コロナ禍、自然災害続きの日本に、“元気”と“友情”を届けよう～(制作:CS日本)

**番宣部門** 天皇杯 JFA 全日本選手権クラシックス 番宣 (制作:ジェイ・スポーツ)

**CAB-J賞** flumpool x QUICKPay コラボレーション企画 (制作:スペースシャワーネットワークス)

**ドラマ奨励賞** 心霊マスターテープ2～念写～(制作:名古屋テレビネクスト)

**審査員長賞** 町田樹のスポーツアカデミア Dialogue: 研究者、スポーツを斬る②～音楽神経科学～慶應義塾大学環境情報学部藤井進也准教授(制作:ジェイ・スポーツ)

なお、冒頭の番組部門6ジャンルの最優秀作品の中から選ばれる注目の「グランプリ」作品については、後日発表することとなった。

7月の世界的な大きなイベントとしては、「カンヌ国際映画祭」を忘れるわけにはいかない。今年の「第74回カンヌ国際映画祭」は、7月6日から12日間にわたり開催さ

れ、長編コンペティション部門には、日本を代表して「ドライブ・マイ・カー」(監督:濱口竜介)が参加し、7月11日に公式上映された。さらにカンヌ・プルミエール部門では、細田守監督の新作アニメ「竜とそばかすの姫」が上映されて、熱烈な拍手を浴びたという。

その後の情報では、パルムドール(最高賞)はフランスのジュリア・デュクルノー監督の「チタン」が受賞し、「ドライブ・マイ・カー」には、脚本賞が与えられた。村上春樹氏の短編をベースに脚本を担当したのは、濱口竜介監督と大江崇充氏である。

話は変わって、久しぶりに8Kの現状に触れたいと思う。8K Association(本部:米コネチカット州ノーウォーク)によれば、現時点で8Kサービスを提供しているのは、NHK BS8K、NASA TV OTT、Rakuten TV OTT、The Explorers OTT、YouTube OTTの6社・団体である。これらの他に、トライアルベースで8Kを提供したテレビ局としては、中国のCCTVと韓国のETRI/KBSが挙げられる。さらに、グループを形成してグローバルなトライアルを実施したのが、Intel、NHK Technologies、Poznan Supercomputing (PSNC)、Spin Digital、Globoである。



写真1 衛星放送協会が7月13日に「第11回衛星放送協会オリジナル番組アワード」の最優秀賞を発表した。(出典:eisehosu.org/award)



写真2 濱口竜介監督と大江崇充氏が脚本を担当した「ドライブ・マイ・カー」が、第74回カンヌ国際映画祭で脚本賞を受賞した。写真は、トロフィーを紹介する濱口竜介監督。(出典:eiga.com/news)

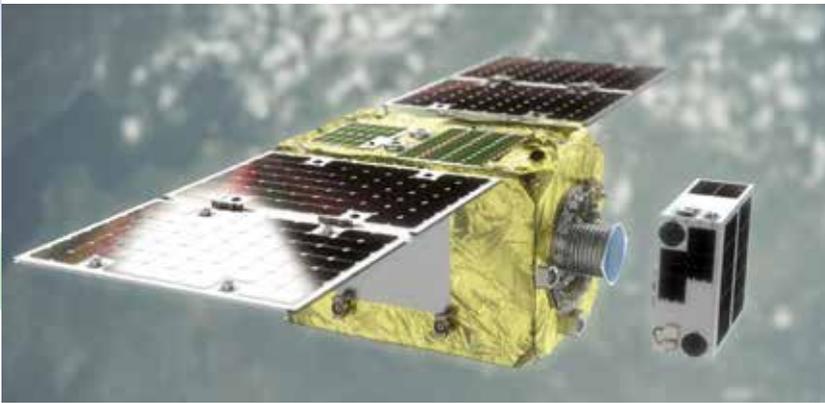


写真3 Astroscale社は、今年3月に実証試験衛星「ELSA-d」を打ち上げて宇宙デブリ除去にチャレンジする。(出典:astroscale.com)



写真4 8K Associationが、世界の8Kサービスの現状を紹介した。(出典:8kassociation.com)

CCTVは、2021年2月1日の春節に、5Gで8K放送を実施している。方式はDTMB-Aで、Bit Rateは120Mbpsとのことである。

ETRI/KBSは、昨年9月と10月にATSC 3.0 MIMO送受信方式、Bit Rate 113Mbpsでトライアルを行ったという。

昨年12月に6社が共同で行った8Kライブストリーミングのデモは、インターネットを使って行われた。8Kライブプログラム(7680 x 4320 Pixels、10bit、60fps)はポーランドのPoznan社8Kスタジオで制作され、ドイツのSpin Digital社がHEVC方式でエンコードしている。受信拠点となったのは、NHK Technologies(東京)、Globo(ブラジルのリオデジャネイロ)、Intel(米オレゴン州ポートランド)である。

最後に、ViaSatellite社が発表した「2021年に最も注目される衛星関連事業者」に触れたいと思う。今回、同社が取り上げたのは、Astroscale、Icye、Kymeta、LeoLabs、Mynaric、Satixfy、Spire、Swarm、Tales Alenia Space、Virgin Orbitの10社である。特色は、小型衛星の時代を象徴する小型観測衛星のIcyeとSpire、小型低軌道周回衛星を駆使してIoTコネクティビティサービスを提供するSwarmの3社がリストされている。変わったところでは、スペース・デブリ(宇宙のゴミ)の除去にチャレンジするAstroscaleと衛星間の光通信の実現を目指すMynaricが入った。

10社のトップにリストされたAstroscale社(本社:東京)は、シンガポール、米国、英国、イスラエルにも拠点を構え多国籍企業としての地位を固めている。

すでに今年3月に実証試験衛星「ELSA-d」を打ち上げ、間もなく宇宙でのデブリ除去の実現を試みる予定だ。

“Access accurate and precise data on any location”をモットーに掲げるIcye(本社:Finland)は、同社が開発した10機のSAR衛星で気候変動や災害対策に貢献しており高い評価を受けた。

Kymeta Corporation(本社:米ワシントン州Redmond)は、移動体用の平面アンテナのメーカーとして知られる。昨年、最新の「u8」アンテナの販売を開始して通信革命を起こそうとしているのが評価されたようだ。

LeoLabs Inc.(本社:米カリフォルニア州Menlo Park)は、地上からSpace Situational Awarenessのサービスを提供している。主力の宇宙観測用のレーダー設備は、コスタリカにある。

Mynaric Lasercom GmbH(本社:ドイツBayern)については、すでに触れが、具体的にはTelesatの低軌道周回衛星「Lightspeed」の光通信機器の提供を目指しているようだ。

Satixfy(本社:イスラエル)は、OneWeb社のIFCターミナルやTelesat社のLightspeed用のモデムの開発に関与している。LEOオペレーターにとっては、重要なパートナーと言える。

Spire Global(本社:カリフォルニア州San Francisco)は、光学センサーを搭載した小型衛星を

駆使してSatellite-as-a-Serviceを提供している。加えてSpace-to-cloud data analyticsも得意とする事業者である。

Swarm Technologies Inc.(本社:カリフォルニア州Palo Alto)は、すでに約100機の衛星を打ち上げてLEO satellite constellation for IoT communicationsを提供している。

Tales Alenia Space(本社:フランスCannes)は、Thales 67%、Leonardo 33%の資本で構成される衛星メーカーである。最近の受注案件としては、Telesat社の298機で構成される「Lightspeed」LEO衛星が挙げられる。

Virgin GroupのVirgin Orbit Company(本社:カリフォルニア州Long Beach)は、小型衛星の打ち上げサービスを請け負う事業者として2017年に設立されている。ロケットは「LauncherOne」と呼ばれる。Virgin Groupは、7月11日に宇宙船「スペースシップ2」による有人試験飛行を成功させ一躍脚光を浴びている。

**Naoakira Kamiya**  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

**ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣**



**<SATCUBEアンテナの特長>**

- 47cm x 30cm x 5.5cmビジネスバッグに入ります!
- SCPCモデル、Sat-Qモデル、各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星補短は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機持込可能バッテリーで運用可(約3時間運用可能)
- 運用中のバッテリー交換可(ホットスワップ対応)
- モバイル中継装置(TVU・Live U・スマテレ等)と連携可

**SATCUBE**

「驚愕の超小型平面アンテナ!」

スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJSAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

**Communications k.k.** エーティコミュニケーションズ株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14  
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>